

## 「阿蘇の草原を守ろう」野焼き編



熊本県立阿蘇中央高等学校

平成30年3月11日(日)に阿蘇中央高校グリーン環境科の生徒達が学校演習林の周辺の草原で「野焼き」を行いました。生徒達は昨年9月の暑い時期に草刈り機を使って「輪地切り」「輪地焼き」を行い、防火帯をつくりました。3月に「野焼き」を行うときに演習林に燃え広がらないようにするためです。



春先に行われる「野焼き」は、牛の牧草の維持や病虫害の駆除、阿蘇固有の植物の保護等に役立っています。近年では野焼きの担い手が不足し、草原の維持管理活動の継続が危惧されています。前身の阿蘇農業高校時代から50年以上続く伝統行事ですが、生徒にとっても危険を伴う重労働で、地域の方との連携が不可欠です。「草原を守ることの大変さがわかった。阿蘇の草原の美しさをたくさんの人に知ってもらいたい。」とは「野焼き」に参加したある生徒の弁。



森林に近い防火帯の側の草原を少し焼いて、次に風上側から焼くと火が一挙に燃え広がります。

この草原維持活動で、グリーン環境科は「2017年度肥後の水とみどりの愛護賞」を受賞しました。生徒達は「草原は僕らの宝物。卒業後も野焼きなどで保全活動に役立ちたい。」と意気込んでいました。